

学校の在り方地区検委員会（第2回）における主な意見一覧

1	全日制課程の学校規模・配置	
①	学校規模・配置	1
②	学校規模・配置の効果・課題	3
2	定時制・通信制課程の学校配置	7
3	その他	9

1 全日制課程の学校規模・配置 — ① 学校規模・配置

地区	主な意見
東青	<ul style="list-style-type: none"> ① 東青地区が持続可能な地域社会として生き残るため、戦略的に学校規模・配置を考える必要があり、各校に期待する役割について、子どもたちにしっかりと理解させることが大事。 ② 地区として学校規模・配置を考えるべきで、地理的な視点と人財育成の視点が重要。鉄道を考慮すると青森東高校、青森高校、青森西高校が教科指導に力を入れる高校となり、青森南高校グローバル探究科、青森北高校スポーツ科学科、青森中央高校総合学科の特色を備えたパイロット校も考えられる。専門高校は今後必要とされる人財を育成する高校として充実すべき。 ③ 東青地区は少子高齢化、生産年齢人口の減少、過疎化等の影響を受けやすい。学級減で対応するのはいつまでか、また、その後どう対応するのが重要。 ④ 中南・三八地区や、私立高校との兼ね合いをどうするのか、また、地域の産業の状況を踏まえた魅力化をどのように図るのが重要。 ⑤ 学科として設置する場合には専門的知識が必要となることから、県教育委員会において検討した上で、本委員会に示してもらいたい。 ⑥ 時代のニーズに合った専門学科を維持する又は増やすことを考えても良い。 ⑦ AIについて学ぶ学科等を工業高校や商業高校に増やすことはできないか。 ⑧ 学校配置案について、後期の計画があると分かりやすい。
西北	<ul style="list-style-type: none"> ① 他地区（特に中南）への進学者が多い現状を勘案して学校規模・配置を行うほうが良い。 ② 10年間で6学級減の見込みであり、後期は少人数学級編制でも対応できず、統廃合が必要になる可能性がある。後期を含め、統廃合の案を事務局から示してほしい。
中南	<ul style="list-style-type: none"> ① グランドデザインの方向性から学校規模・配置を考えれば、新たな専門学科を設置しても良い。 ② 職業学科の増はありがたい。自分の自由な経営ができる強みを発信することも必要。 ③ 地域の担い手育成の観点で生徒が集まりやすい弘前実業高校への農業科設置に賛成。農業はグローバル化やデジタル化などにより変化しており、昔とは違う農業科の設置はこれからの時代に合っている。弘前実業高校に農業科1学級を設置する場合、商業科の学級減が考えられる。 ④ 議論の結果、弘前実業高校農業経営科が募集停止になったので、復活に向けては中南地区の農業に見合う教育内容、農場、施設・設備など、地域が納得できるものになることを期待する。 なお、農場を校地外につくることには賛成できない。柏木農業高校が藤崎校舎の農場を利用しなかったのは、移動時間や手段、天気の変化や生徒の早退等への対応を踏まえた判断だった。 ⑤ 農業科においては、学習領域を広げ、自然科学について実習を含めて体験学習ができるようにしたほうが良い。興味を持てる学習内容であれば、志望する生徒も増える可能性がある。 ⑥ 職業学科は学習内容が専門的過ぎて志願倍率も低下傾向にあることから、幅広い学びを提供することも考えられる。 ⑦ 県として戦略的に残すべき学科がある場合は、その案を提示してもらい、考えたい。 ⑧ 少子化に応じた学校・学級・1学級当たりの募集生徒数を考える必要があるが、減少対策に焦点化することは避けたい。学習の達成感等を得て意欲が高まるような教育を提供できる学校規模が望ましい。 ⑨ 特定の市に偏った学校配置は、他の市町村に居住している生徒が通学するのに負担を強いられるため、スクールバスを活用できる私立高校を選択する要因の一つになってしまう。 ⑩ 地域活性化のためにも、青森市、八戸市、弘前市に高校が集中し過ぎないようにしてほしい。 ⑪ 全日制の小規模校を残すべき。小規模校は生徒に様々な成長の機会を与えるほか、地域産業の担い手も育成する。ただし、生徒数が少ないことにより私費が少なくなるのが課題。
上北	<ul style="list-style-type: none"> ① 現在の学校配置の維持が必要。 ② 通学しやすい場所に高校が配置されることが大切。

	<p>③ 流出している人数を上北地区で補うことができるならばそのままでも良いが、こどもの数が減っているので、状況に合わせて学級減で対応するのが良い。</p> <p>④ 職業学科は1学科1学級であることから人間関係が固定化されてしまうため、授業とホームルームを別の集団にするなどの柔軟性が必要。普通科も1学年1学級では同様。</p> <p>⑤ 小・中学生は身近な職業を希望する傾向があるため、県立高校でも看護師や介護福祉士の国家資格等を取得できる高校、学科等を設置すべき。</p> <p>⑥ 専門学科を設置し、総合的に子どもたちが選択できる学校づくりをしてほしい。</p>
下北	<p>① 次期計画期間内で2学級減り、全体で10学級となるのは了承できない。大間高校を含めて2学級減ということであれば、地区全体の中学校卒業生数と学級減の理屈が合わない。</p> <p>② 大学進学に重点を置く高校と職業教育を主とする高校の棲み分けが必要。</p> <p>③ どの高校で何を学べるかが大事。原子力関連等の地域産業を生かした学びを提供するなど、地区外から生徒を呼び込むような方策を考えるべき。</p>
三八	<p>① 学級減の検討には、志望倍率の変化も考慮する必要がある。</p> <p>② 学級減の検討には、同じ高校の生徒間で広がっている学力差の是正という観点もある。</p> <p>③ 地区全体で人口が減少しており、将来の更なる学級減を見据えた議論が必要。</p> <p>④ 学級減が教育の質の低下に繋がることや、後期実施計画で9学級減が必要になることを踏まえると、早い段階から統合について検討したほうが良い。</p> <p>⑤ 令和19年度までに9学級を減じることを考えると、各校1学級減では対応できない。令和19年度までには統合が想定されるため、令和14年度までに統合を進めて2学級減するのが良い。</p> <p>⑥ 統合により異なる学科を併置する場合、別々の教育課程となるため簡単ではないようだが、三本木農業恵拓高校のように連携・交流のメリットも紹介されたので、良さもあると感じた。</p> <p>⑦ 統合により新しい学校を考える。JR駅の利用、スクールバスの運行、教員数の確保、魅力あるカリキュラム、学科間の交流などができる学校を目指すのが良い。例えば、八戸水産高校、八戸工業高校、八戸商業高校を統合して、「八戸産業高校」としての設置や普通科(特進科)の新設、「八戸北高校と八戸東高校の統合」などが考えられる。</p> <p>⑧ 高校の立地は中学生が進路を考える要素だが、学びたい高校に進学できることが真に重要。</p> <p>⑨ 職業学科は、後継者育成の観点から無くしてはならないが、高校での学習内容と進路選択がリンクしていない生徒も見られる。</p>

1 全日制課程の学校規模・配置 — ② 学校規模・配置の効果・課題

地区	主な意見
東青	<p>◆ 学級減（大規模校から）で対応</p> <p>① 全体的に不満が少ない。</p> <p>② 理解は得られやすいが、学校が小規模化する中でどのように教育活動を充実させるかが重要。</p> <p>③ 特定の高校を失うことは避けられるが、次の計画においては統廃合が必要。</p> <p>④ この対応を行いながら、志望倍率や特色ある学科の維持などを踏まえた検討が引き続き必要。</p> <p>⑤ 前期は大規模校から学級減とし、後期に向けて他の案を検討することになるのではないかと。</p> <p>◆ 学級減（志望倍率の高い学校・学科は除く）で対応</p> <p>① 進学校の志望倍率が高いことから、こどもたちの意見が一番集約されている。</p> <p>② 青森高校や青森東高校から首都圏の大学に進学する生徒が増えるかもしれないが、一方で、それ以外の普通高校は統廃合の対象になる可能性があるため、特色化・魅力化が重要。</p> <p>③ 青森高校の学級数を減らさずに進学しやすい高校にするのが良いのか、それとも進学難関校として、志望するこどもたちの頑張りを引き出すのが大事なのか、などを検討できると良い。</p> <p>◆ 学級減（専門学科は除く）で対応</p> <p>① 人財不足が叫ばれていることから、このような観点も重要。</p> <p>② 中学生の進路志望が具体化している傾向があるので、工業高校、商業高校への配慮は必要。</p> <p>③ 専門高校の生徒が地元に着する可能性はあるが、専門高校だけで地元定着を図るのは心もとなく、普通高校における地域に根差した特色ある教育が大事。</p> <p>◆ 統合等で対応</p> <p>① 生徒数が減ることにより特別活動等で苦労した経験があるため、ある程度の学校規模は必要。</p> <p>② 小規模な小学校から大規模な中学校に進学した場合に適応できない生徒が多いことを踏まえると、適切に統廃合を決断すべき。</p> <p>③ 教育環境の充実や競争による学習効果の向上が見込めるが、地域住民への影響が課題。</p> <p>④ 高校同士の連携を深めることが大事であり、その連携の中で統合が円滑に進む。</p> <p>⑤ 同じ地域という観点で、青森高校と青森東高校、青森北高校と青森西高校、青森南高校と青森中央高校をそれぞれ統合することが考えられる。</p> <p>⑥ 今別町や外ヶ浜町から通学できる高校をなくさないでほしい。県や高校が通学支援を行った上での統合であれば納得できるが、そうでなければ経済的負担が増加する。</p> <p>⑦ 交通の便で問題があるなら、下宿や寮に係る費用を補助するのが良い。</p>
西北	<p>◆ 学級減（五所川原工科高校の普通科を2学級減）で対応</p> <p>① 2学級減の案としては現実的。</p> <p>② 五所川原工科高校が工業に特化することで志望する生徒の目的意識が明確化するほか、地元に着する人財が増える可能性があり望ましい。ネガティブなイメージには繋がらない。</p> <p>③ 3学級になることで多様な生徒との関わりが減り、人間関係の固定化などの課題が生じる。</p> <p>④ 板柳高校・鶴田高校・金木高校との統合の経緯を踏まえると、普通科をなくすことには疑問。</p> <p>⑤ 五所川原高校の学級数が維持され、定員割れが続くことが懸念される。</p> <p>⑥ 普通科が減れば私立高校に流れる可能性が高い。私立高校と県が学級数について検討すべき。</p> <p>◆ 学級減（五所川原高校と五所川原工科高校の普通科を1学級ずつ減）で対応</p> <p>① 2学級減の案としては現実的。</p> <p>② 五所川原工科高校では多様な進路志望に対応する教員の負担が大きくなるほか、大学進学を見据えた教員確保も難しくなる。遠隔授業等での対応も可能だが、対面に勝るものはない。</p> <p>③ 普通科1学級は中途半端。後期実施計画で減になることが予想され、10年間で見ても課題。</p>

	<p>④ 五所川原高校が4学級になると教員定数が減り、進学指導が困難になる。多様な生徒に対応するためには5学級体制を維持することが望ましい。</p> <p>⑤ 五所川原高校の5学級を維持すると学力下位層への対応が難しくなる。学級減になっても必要な学びができる環境を整備する議論をし、その議論を踏まえて県で実行していくべき。</p> <p>⑥ 五所川原高校の教員減による難関大学希望者への影響は理解できるが、五所川原工科高校普通科2学級減による4校統合の意義消失や普通科の選択肢減少も重要なので、この案を支持。</p> <p>⑦ 教員確保の手段として外部委託が進められており、大学教授等の遠隔授業等がある。</p> <p>⑧ 五所川原高校の教育水準を維持しつつ弘前市への流出を防げる。また、普通科志望の中学生の選択肢も確保できる。普通科1学級の教育課程の編成は大変だが、両校が生き残る道になる。</p> <p>⑨ 中南地区への流出は別の問題であって、この案でも流出は止まらない。工業科は工業高校、普通科は普通高校として役割を明確にすべきであり、中途半端な対応は望ましくない。</p> <p>◆ 統合（五所川原農林高校と五所川原工科高校）で対応</p> <p>① 農業と工業の連携により、現場の課題をイメージしながら学べる一方で、五所川原工科高校の普通科が減ることで学力中位層の受け皿がなくなり、中南地区への流出が進む懸念がある。</p> <p>② 後期の生徒数を考え、五所川原農林高校、五所川原工科高校、木造高校を統合して校舎制を導入し、地区の産業の学びを提供するという事は考えられるが、前期での実施は反対。</p> <p>③ 両学科の専門性が薄れるため反対。両学科を併置せざるを得ない場合、高校と接続する公立大学を設置して専門性を発展させることで、他地区からの流入、地域の活力向上に繋げられる。</p> <p>④ 校舎制の場合、部活動や施設・設備面のメリットより移動などのデメリットのほうが大きい。</p> <p>⑤ 校舎制は実質的に別の高校と見られ、地域からも同一校と認識されていなかった。</p>
中南	<p>◆ 学級減（定員割れとなっている高校）で対応</p> <p>① 第1志望校に通えなくなる生徒を増やさないう、定員割れしている高校を学級減すべき。</p> <p>② 定員割れにより学力差が広がっていることから、その解消に繋がる。</p> <p>③ 定員割れとなっている高校を学級減することで競争率が高まり、魅力化にも繋がる。</p> <p>④ 志願倍率があることで切磋琢磨して勉強に励む生徒もいる。黒石高校普通科は1学級分以上の定員割れとなっており、学級減を行うことで志願倍率も上がるのではないかと。</p> <p>⑤ 黒石高校普通科を2学級にして少数精鋭とし、大学進学を目指す学科であると打ち出すべき。</p> <p>⑥ こどもたちから選ばれる学校や学科の設置が必要だが、この地域の外貨獲得のためには農業科の魅力を高め、情報を発信して定員を超える人気の学科に育てあげる必要もある。</p> <p>⑦ 学級減をすれば、その高校に通学する生徒が減るため、地域への影響が少なからずある。</p> <p>⑧ 小規模校の学級を減じる際は、志願倍率の低下を加速させる可能性があるため注意が必要。</p> <p>⑨ 小規模化することで生徒同士の関わりが薄くなるとともに、学びが固定化される。</p> <p>◆ 学級減（1学級の職業教育を主とする専門学科は除く）で対応</p> <p>① 職業学科は、定員割れとなっている状況でも本県にとっては必要。</p> <p>② 職業学科を残すことで、高校のみならず、地域の活性化にも繋がる。</p> <p>③ 私立高校は企業努力をしており入学者数が増えることが予測される。その中で差別化を図り、生徒数を維持するのであれば、やはり専門学科の学級減は避けるべき。</p> <p>④ 弘前実業高校農業経営科で農業に触れて楽しさを知り、農業関係の仕事に就いている人もいる。基幹産業である農業を学ぶ高校がなくなることは考えられず、学級減についても慎重となるべき。</p> <p>⑤ 柏木農業高校は農業教育・環境教育に特徴があるほか、地域の農家の協力により生徒が成長する高校であり、卒業生は地域産業の担い手として頑張っているため、地域に必要。</p> <p>⑥ 弘前実業高校商業科を2学級にして多くの資格を取得できる職業高校に徹するのが良い。</p> <p>⑦ 弘前実業高校スポーツ科学科は目的意識を持った入学者が多く、廃止しないほうが良い。</p> <p>⑧ 普通科がさらに高倍率となり入学できない生徒が増え、県立高校離れを助長する。</p>

	<p>◆ 学級減（黒石高校は除く）で対応</p> <p>① 第1期実施計画における統合を踏まえると、黒石高校は学級減の対象から除いてもらいたい。</p> <p>② 黒石市の中学生に占める黒石高校普通科への進学割合を見ると、令和3年度以降、17%、18%、29%、25%となっており、黒石市の生徒にとって必要な高校となっている。</p> <p>③ 現行計画の学級減対象である弘前南高校、弘前中央高校、柏木農業高校も除いてはどうか。</p> <p>◆ 学級減（普通科及び専門学科で1学級ずつ減）で対応</p> <p>① 生徒数や志望倍率のみで学級を減らすべきではないが、どうしても2学級を減らさなければならぬ場合、普通科と専門学科を各1学級減ずるのが良い。</p> <p>② 黒石高校看護科は県内唯一の短大卒程度の資格を持つ看護高等専門学校の役割を持つ学校であり、残したほうが良い。県内外から入学希望者が増えるような看護教育を行ってほしい。</p> <p>◆ 統合で対応</p> <p>① 学級減だけで全てを解決することは難しいため、統合も考えられるが、様々な課題がある。</p> <p>② 統合により学級数（収容定員）が増えると教員数が増え、教育の質を確保できる。</p> <p>③ 統合といっても統合対象校のいずれかが廃校になるイメージを持たれる。</p> <p>④ 大学や専門学校で専門的に学ぶことから、似たような学科の統合を考えてはどうか。</p> <p>⑤ 統合する場合、弘前市の高校で統合し、黒石市と平川市には全日制高校を1校ずつ残すべき。</p> <p>⑥ 弘前高校と弘前南高校の統合による統合校と弘前中央高校をそれぞれ6学級にしたほうが、互いに進学意識を高めるものと期待できる。</p>
上北	<p>◆ 学級減（職業教育を主とする専門学科を除く）で対応</p> <p>① 専門的な学びを生かして就職や進学に対応しているため、職業学科は残してほしい。</p> <p>② 三本木農業恵拓高校と十和田工業高校を統合してキャンパス制とすることも考えられるが、教育活動は別々の場所で行われる。また、三沢高校と三沢商業高校の統合や農業・工業・商業高校の統合も考えられるが、交通の便を考えると設置場所が難しい。小規模化しても現在地に高校があったほうが良く、また、過去の高校再編の経緯も踏まえる必要があることなどから、この案が良い。</p> <p>③ 多くの中学生が普通科を志望する傾向にあることから、職業学科の再編も検討が必要。</p> <p>④ 七戸町から町外に通学する生徒は保護者による送迎が多いことから、七戸町のような地域には高校を残すべき。小規模になった場合、総合学科のような柔軟な教育課程や単位制を導入するなど、魅力化を図らなければ自宅から離れた高校を選ぶことになる。</p> <p>⑤ 七戸高校が2学級になっても、総合学科の特色ある教育課程が可能な体制を維持してほしい。</p> <p>⑥ 普通科の教員数でのインクルーシブ教育は困難であるため、対応できる総合学科は残すべき。</p> <p>⑦ 総合学科は自由に科目を選択して進路を考えられるため、教育改革の方向性に合致している。七戸高校が2学級になると魅力ある取組が減ってしまうため、学級数を維持してもらいたい。</p> <p>◆ 学級減（職業学科の精選と普通科の学級減）で対応</p> <p>① 国や県の考え方に沿った案である。エッセンシャルワーカーはA Iで代替しにくい分野だと言われており、そのような人材の育成に力を入れることは必要。</p> <p>② 国のグランドデザインを踏まえた現実的な対応。職業学科は地域の人材育成の観点から必要であり、1学科1学級で教育活動を行っていることから学科の集約も困難。</p> <p>◆ 学級減（百石高校を除く）で対応</p> <p>① 百石高校普通科の志望倍率が0.5倍を超える状況で1学級となった場合、希望する生徒が入学できなくなる。また、三沢高校と三沢商業高校の学級減は、三沢市の高校への進学を希望するおいらせ町の子どもたちに影響がある。このような事情を考慮し、百石高校の学校規模を維持してほしい。</p> <p>② 百石高校の志願倍率が0.5倍を下回るのであれば学級減について検討する必要があるが、自宅の近くの高校にしか通えない生徒に対する通学支援をどうするかは課題。</p>

	<p>③ おいらせ町の児童生徒の学年別平均人数にほとんど差が無い場合、この対応を進めてほしい。</p> <p>◆ 統合で対応</p> <p>① 1学年1学級では切磋琢磨する場面が少ない。多様な他者との関わりがコミュニケーション能力の向上に繋がるため1学年2学級以上は必要であり、学校規模維持のためには統合も必要。</p> <p>② 第1期実施計画において統合された三本木農業恵拓高校の普通科1学級を削減しており、さらに普通科を削減すると農業高校に戻る。各校1学級減も一つの案ではあるが、もっと大きな視点で高校再編を行う時期に来ていると認識すべきであり、統合も必要。</p> <p>③ 高校集約により通学に係る交通網も集約できるため、交通手段の課題を少しは解決できる。</p>
三八	<p>◆ 学級減（八戸西高校・三戸郡を除く）で対応</p> <p>① 八戸高校・八戸東高校・八戸北高校は地理的要因にかかわらず志望者がおり、学級減となった場合、その高校を志望する生徒にとって不安材料となる。</p> <p>② 八戸高校を1学級減した場合、八戸高校から他校に志望校を変える生徒が現れ、他校の倍率も上がって教育の質を落とさずに済む可能性がある。</p> <p>③ 八戸西高校の学級数は、三戸郡だけでなく、八戸駅西口周辺のこどもの数も考慮すべき。</p> <p>④ 八戸西高校は五戸町からも通いやすく、町内の生徒が最も多く進学する県立高校だが、八戸学院ひばり野西高校の開校後には生徒の進学動向も変わるかもしれない。</p> <p>⑤ 五戸町の中学生が八戸学院ひばり野西高校を選択することも考えられるため、八戸西高校・三戸郡を除くことについて再考が必要。</p> <p>⑥ 新郷村から八戸学院ひばり野西高校への進学希望者は一定数いると思うが、八戸西高校は村内から公共交通機関で通学できる公立高校であるため、村内生徒のニーズはなくなる。</p> <p>⑦ 三戸郡の生徒の通学環境を踏まえると八戸西高校の地理的な必要性は尊重されるべきだが、完全に学級減の対象外とすることについては違和感がある。</p> <p>八戸東高校と八戸北高校が現行計画で学級減となることを踏まえると、次期計画での学級減に地域の理解を得られない。また、八戸高校には他校にない人財育成体制があり、率先して学級減すべきでない。八戸西高校も学級減の候補として、バランスを考慮して議論を行うべき。</p> <p>◆ 学級減（職業教育を主とする専門学科を除く）で対応</p> <p>① 教育の質の確保の観点や現行計画における学級減の実績を踏まえた議論が必要。</p> <p>◆ 学級減（学科の統合）で対応</p> <p>① 職業学科の場合、学級減が学科の消滅に直結することに不安を感じる。</p> <p>② 職業学科は地域の産業への貢献度が高く、安易に学級減できない。コース制が難しいのであれば少人数学級編制により学級数を維持できないか。</p> <p>◆ 統合（八戸商業高校及び普通科高校）で対応</p> <p>① 学級減が学科の消滅に繋がる場合は安易に学級減できない。効果や課題を検証する必要があるが、職業学科と普通科高校の統合も考えられる。</p> <p>② 学級減よりも統合によって学級数を減らす策を考えたほうが良い。例えば、八戸商業高校を八戸東高校か八戸工業高校と統合できないか。</p> <p>③ 同じ学科の統合は難しいため、例えば八戸東高校と八戸商業高校の統合が考えられる。</p> <p>④ 小規模校では人間関係が固定化された中で3年間を過ごすことになるため、大規模校を選択する生徒が多いのではないかと。また、異なる学科の統合により、多様な学びを提供でき、様々な目標を持った生徒が集まるなど、魅力的な高校になる。</p> <p>⑤ 八戸商業高校の進学率が高いことを理由に普通科高校との統合を行う案だが、進学先の傾向が異なる高校の統合について慎重に考える必要がある。</p>

2 定時制・通信制課程の学校配置

地区	主な意見
東青	<ul style="list-style-type: none"> ① 多様な教育機会の保障として北斗高校の役割は大きく、充実が必要。 ② 不登校の子どもやその保護者にとって、北斗高校のような魅力ある高校に期待感があるが、受入れが難しいとのことなので、規模を拡充したり、通信制の生徒が通いやすい高校にすべき。 ③ 様々な事情を抱えた子どもが北斗高校に進学できるよう、学級増や通信制の充実を図るべき。 ④ 生徒の多様化が見込まれるため、北斗高校の拡充に賛成であり、ほかにも生徒の多様化に対応できる高校が2校くらい必要。 ⑤ 青森市内の不登校生徒の進学希望先としては北斗高校が一番多い。また、校内教育支援センターや特認校における支援を受ける生徒も多く、北斗高校のような高校がもう1校あると良い。 ⑥ 定員割れしている高校は定時制・通信制を設置すべき。 ⑦ 工業高校と商業高校に定時制を設置すべき。 ⑧ 各校に特別支援学級を作ったほうが良い。
西北	<ul style="list-style-type: none"> ① 定時制は生徒の社会的自立に繋がる役割を果たしている。五所川原高校定時制は継続すべき。 ② 五所川原高校定時制は地区唯一であり、様々な事情を抱えた生徒に対応できるため残すべき。 ③ 定時制は現在の配置を維持し、五所川原高校定時制を残してほしい。 ④ 西北地区への定時制の配置を継続してもらいたい。 ⑤ 通信制を選択する生徒も増えていることから、現在の3地区の配置を維持すべき。 ⑥ 私立高校の通信制も設置されているので、県立高校の通信制は現状の配置のままで良い。 ⑦ 通信制が選ばれている実態を踏まえ、全日制の在り方を見直す必要がある。
中南	<ul style="list-style-type: none"> ① 全日制に馴染めない生徒が増えていることから、今まで以上に定時制・通信制は重要であり、充実させてほしい。 ② 様々な事情を抱えた生徒の受入れ先として、この地区では、きめ細かな教育を行う尾上総合高校がその役割を担っていくのではないかと。 ③ 定時制は昨今の状況下で重要視すべきであり、現状の設置が望ましい。 ④ 現在のままで良い。減ずるとすれば、3部制定時制ではなく、昼間と夜間の2部制が良い。 ⑤ 尾上総合高校は生徒の通学を考えると立地条件が悪い。夜間部の生徒は暗い中で帰宅することになる上、弘南鉄道が不通になると代行バスも早い時間帯で終了するので大変。
上北	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒の多様なニーズ等に応えるため、定時制は残さなければならない。 ② 生徒の多様なニーズや特別な支援を必要とする生徒に対応する必要がある。3年での卒業やライフスタイルに合わせた授業の受講ができれば、より多様なニーズに対応した定時制になる。 ③ 定時制の理解や志望理由が生徒や保護者によってばらつきがある。定時制高校の特色や魅力、教育方針などを改めて県民に広める努力を求めたい。 ④ 通信制を希望する生徒数は増加傾向にある。上北地区の生徒が通信制を選択する場合、八戸市への移動が必要となることから、上北地区にも通信制の設置を検討してほしい。 ⑤ 多様な生徒への教育のため、通信制を設置すべき。定時制や通信制、通級による指導は、様々な子どもたちが一緒に学ぶための方策であり、このような考え方は、教職員だけでなく県民の理解も必要であるため、県民への理解促進もお願いしたい。 ⑥ 不登校生徒や転学希望生徒の通学・転学先として、上北地区に通信制が必要。スクーリングに係る交通の便を考えて、野辺地高校に設置するのが良い。 ⑦ 通信制を設置するために必要であれば新たに施設整備を行うべき。 ⑧ 通信制は中学生のみならず高校生にもニーズがあるが、上北地区の子どもが選択する通信制は私立高校や県外の学校であり、アルバイトで学費等を捻出している生徒もいるため、上北地区に1校設置してほしい。

	<p>⑨ 通信制は私学が本気で経営に参入し、県立高校にはない魅力や工夫を取り入れ、新しい学びの形態として認知されてきている。県として通信制の充実に努めても私学の経営には勝てないため、既存の通信制高校の特色等の広報に力を入れるべきであり、新たな設置は不要。</p> <p>⑩ 定時制・通信制は、学校教育が変化している中で難しい課題。実績や今後の生徒数に合わせたデータも踏まえて検討することが必要であり、各市町と連携した討論が必要。</p>
下北	<p>① 夜間は交通機関がなく通学困難な生徒がいるため、昼間定時制の設置を改めて要望したい。</p> <p>② 通信制の需要や重要度は高い。スクーリングの場所として公共施設等の活用も検討すべき。</p>
三八	<p>① 不登校傾向の生徒が増加し、進路選択に苦慮していることから、現状どおりの配置が良い。</p> <p>② 通信制は進路の多様化に伴いニーズの増加が予想されるが、私立高校や全国組織の高校が増えているため、公立高校として設置しなくても良い。</p> <p>③ 通信制は年度明けの合否通知であるため選択しづらいという声がある。私立の通信制高校と同日程で入試ができないかを検討する必要がある。</p>

3 その他

地区	主な意見
東青	<ul style="list-style-type: none"> ① 少人数学級編制の教育的効果は高いが規模の利益を失う。 ② 地域に着目した探究学習により、普通科の生徒が地域を知り、成長して青森に戻ってくるというのは良い。職業学科では課題研究を行っており、キャリア教育でも探究的な学びは重要。 ③ 総合的な探究の時間には地域学習、学術的な研究、キャリア教育の3つの目的があるが、各校の特色化が進むと特色の均質化が起こる可能性があり、高校の特色化にも難しさがある。 ④ 青森市では、高校と地域の関係機関が連携してまちづくりと学びづくりを結び付けることが大事。教育が学校の中だけで完結するような状況だと立ち行かなくなる。 ⑤ ICTの活用は軌道に乗るまでに時間がかかる。遠隔教育も実施において課題がある。 ⑥ オブザーバーが提供してくれるような情報が委員には無く、委員の意見が有益であるか疑問。高校長や県教育委員会が協議し、方向性を示してもらった上で委員が協議したほうが良い。
西北	<ul style="list-style-type: none"> ① 少人数学級編制の要望が反映されておらず、方向性が整理されないまま議論するのは早い。 ② 10年間で考えると少人数学級編制の拡充は避けて通れず、県独自の施策として県費による教員配置を実施すべき。 ③ 少人数学級編制実施に向け、教員定数の見直しについて県として取り組んでもらいたい。 ④ 他地区への流出については学区制の再導入等を含めた抜本的対策を考える必要がある。特色ある高校づくりに投資しなければ人口減少は止まらない。国任せではなく県独自の施策が必要。 ⑤ 案に対する県教育委員会の考え（効果と課題）を示してもらえれば、有意義な検討ができる。 ⑥ 後期も含め、ゴールの姿を想像した上で直近の5年間について考えるのが望ましい。そのため、令和10年度からの10年間の県教育委員会としての考えや計画を示してほしい。 ⑦ 本県は高校教育改革が待ったなしであるが、本委員会に危機感が感じられない。急いで議論を進めることも必要だろうが、令和19年の高校の在り方や配置等を考える必要がある。 ⑧ 高校の現状が分からず、議論の材料が少ない。スクール・ミッション等をどのように踏まえれば良いのか、また、教員の力量についても情報が不足しており、議論を急ぎ過ぎている。
中南	<ul style="list-style-type: none"> ① 青森市、八戸市、弘前市以外の高校の定員を減らし、現在の高校・学科を存続させてほしい。 ② 国が策定した高校教育改革に関する基本方針や青森県で必要な人財の育成方針を考えると多様な学びが不可欠であり、学科の新設や少人数学級編制の実施について検討をお願いしたい。 ③ 中南地区は他地区よりも倍率が高く、第1志望校を不合格となった生徒は私立高校に進学する。第1志望校を不合格となる中学生が極端に多くならないよう募集人員を設定すべき。 ④ 黒石高校商業科は少数精鋭で職業意識を身に付けさせ、様々な資格が取れるようにすべき。 ⑤ 農業科で大学進学等にも対応できる教育課程を編成することで子どもたちが様々な選択ができ、農業科の倍率も変わってくる。さらに、生徒が志望したくなる学校名にすることも必要。 ⑥ 多様な生徒を伸ばすためにも、単位制導入や探究科設置などを進めてほしい。 ⑦ 県全体の全日制高校で通級指導を進めてほしい。生徒の個性を生かし、教職員が苦労しないように、本格的に特別支援教育の体制を確立し、実施に繋げてほしい。 ⑧ 尾上総合高校における他校通級指導や柏木農業高校での自校通級指導を実施してほしい。 ⑨ 中学生が高校のことをどれだけ知っていて、将来をどれだけ考えた高校選択になっているかなどを疑問に感じる。これからも多様な視点から総合的に検討していくべき。 ⑩ 2学級減の理由を、生徒数の減のみならず教育費等を含めはっきり打ち出してもらいたい。
上北	<ul style="list-style-type: none"> ① 普通科の魅力向上を図るため、少人数学級編制を実施するための最大限の努力が必要。 ② 1学級ではクラス替えができず、人間関係等を理由に進路変更する生徒もいることから、1学年2学級以上は必要。そのためにも少人数学級編制を検討すべき。

	<ul style="list-style-type: none"> ③ 多様なニーズに応えるために教職員数は必要。学級減よりも少人数学級編制を実施することで教職員数の削減が抑えられるため、県費を投入してでも教職員の確保が必要。 ④ グランドデザインの方向性を確かなものにするために少人数指導によるきめ細かな対応が有効。教員加配について県独自予算で実現させる方策を打ち出し、人への投資を具現化すべき。 ⑤ 少人数学級編制の実施をお願いしたい。また、通学支援の検討や奨学金の拡充も必要。 ⑥ 中学生は柔軟な教育課程を希望しているが、実際は教育課程が固定化された普通科を選択する。この乖離が不登校等に繋がり得るため、普通科でも柔軟な教育課程の編成等が必要。 ⑦ 他地区への流出を防ぐため、校長が柔軟な教育課程を編成できるようにして魅力向上を図るべき。 ⑧ 夢の実現に向けた学びができるよう、地域の実情を考慮した県ならではの教育を考えてほしい。 ⑨ 自宅から通学できる高校でも、遠隔授業等の多様な教育を受けられる環境があると良い。 ⑩ 遠隔授業を県内一円で充実させ、自校にない科目も学べる仕組みを作り、将来的に全ての生徒が自校の科目によらず希望する単位が取得できる制度として整備すべき。 ⑪ 県費による通学・居住費助成を実施し、高校進学に係る地域格差を少なくすべき。 ⑫ 実際に教育活動を行う高校から意見を聴取しながら案を作成してほしい。 ⑬ 県としてのビジョンを示し、その実現に向けて協力をとということであれば議論しやすい。
下北	<ul style="list-style-type: none"> ① 40人学級編制は本県の実情に合っていないので、機会を捉えて国に訴えていく必要がある。 ② いじめの少なさや、他にはないユニークな取組をアピールして生徒を呼び込むべきである。 ③ 大間高校存続のために地域で取り組んできた。地区として大間高校についても考えたい。 ④ 部活動を理由とした地区外の私立高校から中学校へのアプローチが増えている実態がある。 ⑤ 通学の時間や費用を踏まえ、地区外の高校も選択肢であるという話を聞くが、スクールバスを整備し、生徒が地区外へ流出しないように考えることも必要。 ⑥ むつ養護学校への通学に係る負担が大きいため、大間高校に分教室を設置してほしい。 ⑦ 高校を選択するには、学べる内容が大事であり、それが見えない中で議論するのは難しい。 ⑧ それぞれの学校で何を学べるかが不明確なままでは議論が難しい。 ⑨ 統合校の姿や高校無償化の影響等が分からないままでは議論が難しい。
三八	<ul style="list-style-type: none"> ① 近年、田子町では、私立高校の特色に魅力を感じ、単願受験する生徒も増加している。 ② 私立高校への進学増加の背景として、学校の特色に魅力を感じていることや、推薦による学費免除などが挙げられる。保護者が卒業生という例もあり、私立高校が身近になっている。 ③ 授業料が完全無償化になれば、ますます公立離れが加速していく心配がある。 ④ 今後、私立高校を選ぶ生徒が増えることを考えると、2学級減が妥当であるか検討が必要。 ⑤ 私立高校に進学する生徒が増加し、県立高校の学級減等が志望倍率の向上に繋がっていない。 ⑥ 私立高校の情報も踏まえた県立高校の在り方の議論が必要。 ⑦ 私立高校と比較しながら県立高校の優位性を考えることも必要。 ⑧ 八戸西高校は田子町内の生徒の進学先の一つだが、部活動等の時間を確保するためには下宿等の対応が必要となるため、保護者の負担軽減について考慮する必要がある。 ⑨ 高校受験段階で将来を決めている生徒は少なく、3年間の学びを生かせるような指導が必要。 ⑩ 目的意識を持って高校を選んでもらうためには、中学生段階での進路指導が課題。 ⑪ 県立高校において、地域で暮らすことを教えることが重要。 ⑫ 名久井農業高校の全国募集は今後も継続してもらいたい。 ⑬ 国が策定した高校教育改革に関する基本方針の視点はいずれも社会で必要とされる力だが、それについてどのような教育活動が求められているのか、研修等を通して高校に浸透させる必要がある。